行動計量学会報

日本行動計量学会事務局
〒106 東京都港区南麻布 4−6−7
統計数理研究所　村上研究室

梅干しと塩づけオリーヴ

高根芳雄

会員の皆様の中にはよくギリシャ料理などに出てくる塩づけの黒オリーヴを味わったことがある人も多いと思われる．私は長いことこの塩づけオリーヴが嫌いだった．どうも変てこな味がすると思ったものである．ところがある時，突然のごとくこの塩づけオリーヴは日本の梅干しのようなものではないかと思った．そう思ったとたん塩づけオリーヴに対する偏見 (?) が消え，いまではかなり好きな食べ物の部類に入っている．もちろん梅干しは昔から好きだった．小さい頃から母に体に良いからと食べさせられ，時には不健康なまでに食べ過ぎてしまう程である．特に食べ物の場合「好き」の根底には「慣れ」があると思われるが，塩づけオリーヴを好んで食べる西洋人でも慣れない梅干しの味はちょっと耐えがたいのではないかと思う．事実，今年の春オランダで梅干しの話をしたら多くのオランダ人は案の定 salted plum と聞いただけで顔をしかめていた．

私がニューラルネットワーク（ＮＮ）という言葉を聞いたのはもうかれこれ４，５年も前のことであろうか．最初は何とも胡散くさい方法と思っていた．逆伝幡とか耳慣れない用語や学習，発達，汎化といった心理学用語をやたらと使う何となく謎めいた方法だと思っていた．ところがある日突然のごとく，ＮＮモデルは一種の非線形モデルではないかと気がついた．特にフィードフォワード型と呼ばれるタイプのものは入力を出力に結びつける非線形関数の近似法に過ぎないのではないかと．もちろんこういう見方はすでにあって私の独想というわけではないが，非線形モデルといえばＭＤＳや各種非線形多変量解析法などこれまでずっと自分が研究してきたものではないか．そう思ったとたんＮＮモデルにまつわる神秘性が消え，なじみ深いものとなった．面白いもので少し解りかけると興味がわきもっと組織的に勉強しようという気になり，それがまた理解を促進することになった．

ＮＮモデルの面白いところは必要に応じて変数間の交互作用を自動的にとらえるところにあると思われるが，それを目のあたりに体験したのが Oshima-Takane ら (1995) による代名詞の学習シミュレーションであった．母親が子供に向かって使う me は母親自身を指し，you は子供を指す．ところが子供が使う時はそれを逆転しなければならない．この逆転がどのように学習されるのか? 残念ながらここで詳しく説明している余裕はないが，学習の成立には変数間の交互作用が絶対に必要な問題であることだけは確かである．（興味のある読者は takane@takane2.psych.mcgill.ca に論文を請求されたい．）ＮＮモデルの研究者の中にはうまく行くならその理由はどうでもよいという人もいるがそれでは面白くない．モデルのブラックボックス化を避けるためには関数が最終的にどのように近似されるかばかりでなく，それが学習環境によってどのように影響されるのか，学習過程で関数の近似がどのように進展するのかなども見ていかなければならない．いずれも興味深い問題である．

（たかね　よしお，McGill 大学）

日本行動計量学会第23回大会（関西大学）迫る

第23回大会は，9月12日(火)～14日(木)の間，関西大学で開催されます．また，それに先立つ9月11日（月）にはチュートリアルセミナーが同じ関西大学において催されます．奮ってご参加ください．

チュートリアルセミナー（講習会）

タイトル：EQS for Windows による共分散構造分析入門
講　師：P. M. Bentler（UCLA 心理学科教授）
　　狩野　裕(筑波大学数学系助教授)
日　時：1995年9月11日（月）13：00～17：00
会　場：関西大学100周年記念会館特別第1会議室
参加費：5,000円（学生，大学院生は3,000円：当日会場にて申し受けます）
照会先：305 つくば市天王台 1-1-1
　　筑波大学 数学系　狩野　裕
　　TEL 0298-53-4229,
　　FAX 0298-53-6501
　　e-mail kano@math.tsukuba.ac.jp

第23回大会

日　時：1995年9月12日（火）～14日(木)
会　場：関西大学
特別講演：
1．Norman D. Cook「Checking on the Behavior of Neural Nets」
2．三宅一郎「日本人の政党支持と政党支持研究」
3．安本美典「日本語の起源」
教育講演：
　　橋本文彦「遺伝的アルゴリズムを用いた画像処理」
その他，特別セッション，シンポジウム，自主シンポジウム，一般講演など多数．

会員便り

近　況

東京都神経科学総合研究所　逸見　功

神経心理学，神経生理学，神経疾患の調査などの神経科学の様々な領域の研究と関わってきました．現在，個人的には非定常・非線形性を特徴とする生理学的現象に興味があり，定常状態から非定常状態へ変化する時点の推定法を研究しています．具体的な生命現象を対象とし解析目的を絞ることが，既成の概念と手法の呪縛から逃れる一つの道であると考えています．

統計解析の原点を省みるという意味でも，行動計量学会誌・会報に掲載される専門以外の分野およびデータ解析に携わっている方々の声を楽しみにしています．

近　況

早稲田大学大学院文学研究科　笠原正宏

はじめてのこどもが生まれた．もうすぐ6ケ月になる．これが，めちゃめちゃおもしろい．疑問の宝庫なのである．泣くのは不快なときだけなのか？　おとなはいろいろな角度から顔を見せるが，赤ん坊はそれを心的に回転して個体識別しているのか？

おとなは赤ん坊のなかに「感情」や「意思」を感じるが，そのメカニズムはどうなっているのか？　また，おとなのあいだの「○×に似ている」ゲームもおもしろい．発達の分野に商売変えしようかとさえ思ってしまう今日この頃である．

近　況

名古屋大学教育学部　村上　隆

3月末から，文部省在外研究員としてオランダに来ています．最初の3ヵ月は，Groningen の Henk Kiers, Jos ten Berge の下で主として理論的なことをやっていましたが，6月末から2か月は Leiden に移り，

Pieter Kroonenberg と3相主成分分析の応用に関する仕事をしています．

この歳になって初めての外国生活で，果たして何ができるか不安でしたが，今のところ，時間はかかるにしても意外にまだ学習能力が残っているなという印象です（自己評価が甘い？）．こちらで助けられているのはMATLABという行列計算用コンピュータ言語，刺激を受けているのは Leiden 大学内にある DSWO Press から出ているデータ解析関係の多くの書物です．特に，Ten Berge, J.M.F.1993 *Least Squares Optimization in Multivariate Analysis* からは，自分の思考のスタイルが一変するほどの影響を受けました．これも，著者その人と毎日接する機会（と言ったってせいぜい昼食時のたどたどしい会話程度です）があるせいもあるのでしょう．ともかく，「リストラ」の嵐が吹き荒れる日本の大学からは夢のようなこの「浮き世離れ」した生活を今しばらく満喫させてもらいます．

修士論文題目

東京大学　修士（教育学）

栗田佳代子：効果の大きさの区間推定の頑健性ーコンピュータ・シミュレーションによる検討

平成7年度　第1回理事会議事録

・日　時：平成7年5月15日（月）午後6時～8時
・場　所：大学入試センター
・出席者：池田，岩崎，岩坪，岡太，久保，繁桝，杉山，高木，柳井，田栗，清水，村上（征）

1．各種委員会報告

・岡太和文誌編集委員長より，査読票，査読手順の改訂，投稿規定の改訂，執筆要項の改訂，審査期間の短縮等について報告があった．また，21巻2号は3月末に発刊したこと，及び，22巻1号，22巻2号の編集状況についての報告があった．

・繁桝欧文誌編集委員長より，欧文誌の編集状況についてVol. 22, No. 1 は論文 5，ノート 1 にて3月末に発刊．Vol. 22, No. 2（7月末締切目標）は現在編集中，Vol. 23, No.1（12月末締切目標）は Special issue を計画している旨報告があった．

・田栗運営委員長より，講演会，シンポジウム等の実施報告及び今後の計画，学会ポスターの作成，入会案内書等の作成についての報告があった．また小グループ研究会の申請手続き等の検討状況の報告があった．

2．第23回大会の準備状況について

清水大会実行委員長代理より，第23回大会の準備状況について報告があった．

3．第23回大会におけるチュートリアルセミナー（講習会）の開催について

チュートリアルセミナー（講習会）として「EQS for Windows による共分散構造分析入門」を開催することが決まった．

4．第24回大会について

田栗理事より，第24回大会は，1996年9月7日（土），8日（日），9日（月）の3日間，千葉大学が開催校となって，幕張メッセを会場として日本統計学会と同時開催することとなった旨報告があった．

5．学会費の値上げについて

事務局より値上げ案の説明があり，次期総会の議題として，正会員8,000円（2,000円up），準会員5,000円（1,000円up）参助会員50,000円（20,000円up）の会費値上げ案を提出することとなった．

6．統計関連学会の共通名簿について

統計関連学会との共通名簿作成についての会議の報告が担当者（事務局村上）よりあった．

日本学術会議関係報告

日本学術会議会員（第4部）藤井光昭

1．日本学術会議総会，部会，常置委員会等が4月18日～21日に開催された．

(1) 総会（4月19日，4月20日）

a. 阪神・淡路大震災調査特別委員会の設置を承認．b. 日本学術会議の国際農業工学会への加入を承認．c. 脳の科学とこころの問題特別委員会中間報告：「こころ」の部分を中心に多くの意見が出された．d. 会長基調報告「高度研究体制をめざして」：基礎研究と応用研究の間を埋める戦略研究（軍事的意味ではない）の必要性．その他．

(2) 第４部部会（4月18日，4月19日）

a. 国際陸上科学堀削計画（ICDP)への我が国の参加について：継続審議となった．b.科学教育研連への新教育課程編成検討小委員会の設置について：日本学術会議会員が参加出来る形をとることを条件に承認．c. 理科ばなれ対策もあり，一定の条件をみたす同好会が発行するものも学術刊行物として認めるよう働きかけることとなった．d. ラージサイエンスについて：継続審議．その他略．

(3) 第５常置委員会（4月21日）

a. 自治省の文書の保存について．b. 再版制度廃止の問題：調査することとした．c. 学術情報ネットワーク小委員会：データベースの問題等でヒヤリングを行った．

2．統計学研究連絡委員会（第3回，4月24日）

a. 数学研究連絡委員会の山口委員長より，同委員会の小委員会（新しい方式の国際研究所構想の実現等を扱っている）に統計学研究連絡委員会から2名加わってほしい旨の依頼があり，検討の結果，吉村功委員と藤井が参加することとした．情報学研究連絡委員会からも2名参加されるようである．

b. 次の中学，高等学校等のカリキュラム改訂に向けて，数学，理科，技術等に関し提言などを行うための具体的検討・調査等を始めようとしている科学教育研究連絡委員会の小委員会に対し，藤井の方から統計学関係者も参加させてほしい旨の打診をしていたが，このたびオブザーバーの形でなら可能とのことで，あらためてこの小委員会への参加について統計学研究委員会で検討した．また第4部の「科学教育の振興と人材養成」小委員会の拡大討論会への参加についても検討した．その結果，両者とも参加することとし，幹事の吉村功，田栗正章両委員と委員長の藤井でとりあえず対応していくこととした．統計学研究連絡委員会の第16期の3回の会合，第15期の会合等で出されていた意見をとりあえずまとめたが，数学だけでなく社会科・理科等においても現実のデータとの対応で統計数値の見方や意味，どう用いるか等基礎的なことを教えた方がよいとの意見が出されており，今回の会合でも日本学術会議の各部選出委員からも強く出された．また高等学校数学の「確率・統計」の推測の理論の部分を深くやることは必要ないのではないかとの意見も多く出されている．今後更に現行の教科書等も調査して検討を深めていく予定．

c. 国際対応に関するアンケートの回答の検討，統計関連学会間の共同事業の１つとしての共通名簿作成について3月24日開催の6つの学会代表者との懇談会の報告等が行われた．

関連学会カレンダー

1995年9月8日（金），9日（土）

日本応用心理学会第62回大会

会　場：共立女子大学神田校舎
連絡先：共立女子大学教職課程研究室
　　高嶋正士，西塚知恵子
　　TEL 03-3237-2649
　　FAX 03-3237-2648

9月9日（土）13:30～16:30

日本ファジィ学会 第10回 評価問題研究会

会　場：三菱総合研究所ビル2F 大会議室
　　（地下鉄丸の内線大手町駅下車）
テーマ：「認知科学及び心理学的評価」
講　演：「推論における図形の役割」元田
　　浩（(株)日立製作所）
　　「『公理的測定論』について」
　　吉野諒三（統計数理研究所）
連絡先：鷲尾　隆（(株)三菱総合研究所）
　　TEL 03-3277-0769,
　　FAX 03-3277-3480
　　e-mail　washio@mri.co.jp

9月23日（土），24日（日）

第36回日本社会心理学会大会

会　場：成城大学
連絡先：成城大学文芸学部石川弘義研究室
　　Tel 03-3482-1181

9月25日（月），26日（火）

第20回数理社会学会大会

会　場：統計数理研究所 講堂
交　通：地下鉄日比谷線広尾下車徒歩７分
参加費：一般 2,000円，学生 1,500円，
　　非会員 2,500円
連絡先：港区南麻布 4-6-7 統計数理研究所
　　坂元慶行　（大会委員長）
　　TEL 03-3446-1501（代表）
　　03-5421-8732（ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ）
　　FAX 03-3446-1695
　　E-mail sakamoto@ism.ac.jp
　　坂元不在の場合は，中村　隆
　　（TEL 03-5421-8733）か前田
　　忠彦（TEL 03-5421-8734).

9月28日（木）～30日（土）

日本教育心理学会第37回総会

会　場：茨城大学水戸キャンパス
連絡先：茨城大学教育学部教育心理学教室
　　TEL 0292-26-1621 (内線 401)

10月11日（水）～13日（金）

日本心理学会第59回大会

会　場：沖縄コンベンションセンター他
　　（沖縄県宜野湾市真志喜 4-3-1）
連絡先：東京都文京区本駒込5－16－9
　　(財) 日本学会事務センター内
　　日本心理学会第59回大会準備
　　委員会
　　TEL 03-5814-5800（代表）
　　FAX 03-5814-5823

10月17日（火），18日（水）

応用統計シンポジウム

会　場：成蹊大学（武蔵野市吉祥寺北町）
連絡先：応用統計学会事務局
　　TEL & FAX 045-562-4442

10月19日（木），20日（金）

計算機統計学会シンポジウム

会　場：両国シティコア10階会議室
連絡先：住商情報システム（株）新村秀一
　　FAX 03-5624-1725

10月18日（水）～20日（金）

日本神経回路学会第6回全国大会

会　場：東北大学医学部良陵会館

連絡先：980-77　仙台市青葉区荒巻
東北大学工学部電子二学科星宮研究室
TEL　022-217-7143

11月5日（日），6日（月）

日本健康心理学会第8回大会

会　場：東京家政大学狭山校舎（文学部）
連絡先：東京家政大学文学部心理教育学科
TEL 0429-55-6961 (内線362)

11月25日（土），26日（日）

日本グループ・ダイナミックス学会大会

会　場：学習院大学
連絡先：学習院大学文学部心理学研究室
TEL 03-3986-0221

11月下旬

ファジィ評価講習会
「--- ファジィ積分を中心として ---」

会　場：明治大学駿河台校舎（予定）
連絡先：高萩栄一郎（専修大学商学部）
FAX 044-911-1241
e-mail takahagi@isc.senshu-u.ac.jp

12月4日（月）～6日（水）

第38回自動制御連合講演会

会　場：筑波大学大学会館［つくば市天王台1-1-1，TEL (0298) 53-2035］
連絡先：（社）計測自動制御学会
担当　宍戸えみ子
東京都文京区本郷1-35-28-303
Tel : 03-3814-4121,
Fax : 03-3814-4699

公募案内

筑波大学大学院経営・政策科学研究科

1．採用職名・人員：専任講師1名（主に経営・政策科学研究科（修士課程）授業担当，社会工学系所属）

2．募集分野：経営情報システム論

3．応募資格：出身学部を問わないが，上記に関連する分野（経営，行政，または情報など）において，博士号またはそれに相当する専門実績を有し，審査付き学術論文（またはそれに相当する論文）を一篇以上公刊していること

4．採用予定年月日：1996年4月1日

5．応募期限：1995年9月29日（金）必着

6．問い合せ先：筑波大学社会工学系
江藤　肇　305 茨城県つくば市天王台1-1-1
TEL 0298-53-5097
FAX 0298-53-5070

四国学院大学

1．採用職名・人員：教授，助教授または講師1名（マスメディア論または産業社会学のいずれか，および情報処理概論(社会科学分野の統計調査法を含む)と同実習.

2．所属学科：応用社会学科

3．応募資格：大学院修士課程修了者，もしくは，それと同等以上の業績を有すると判断されるもの.

4．採用予定年月日：1996年4月1日

5．応募期限：1995年10月31日（火）

6．問い合せ先：765 香川県善通寺市文京町3丁目2-1　四国学院大学社会学部長
根元博愛　TEL 0877-62-2111
（内線386または201）

早稲田大学人間科学部

1．採用職名・人員：助教授，または講師１名（専門領域は，環境心理および人間環境・行動の研究領域における，地理環境，生態環境，構築環境，社会環境，あるいは情報環境等と人間とのインターフェースを対象とした実際的な研究・開発．担当科目は上記専門領域に関する講義および演習．なお「情報処理」の科目を担当することもある）

2．所属学科：人間健康科学科

3．応募資格：(1) 博士の学位を有するか，あるいはそれと同等の研究業績を有するもの　(2) 任用時の年齢が30歳以上，40歳以下の者

4．採用予定年月日：1996年4月1日

5．応募期限：1995年10月31日（火）

6．問い合わせ先：359 埼玉県所沢市三ケ島 2-579-15 早稲田大学人間科学部
人間健康科学科　佐古順彦
Tel：0429-47-6766（ダイヤルイン）
Fax：0429-48-4314（学部事務所）

会員による著訳書

楠見　孝（1995.3）『比喩の処理過程と意味構造』　風間書房　12,360円

スピーロ・S・マクリダキス＆スティーブン・C・フィールライト著　加藤五郎訳　『計画策定と意思決定のための予測手法入門』　同友館　4,200円

入会手続き

学会では新入会員を広く募っています．詳しくは

〒113 東京都文京区本駒込 5−16−9
学会センター　C−21
(財) 日本学会事務センター内
日本行動計量学会係
TEL 03−5814−5810
FAX 03−5814−5825

までお問い合わせください．

会報編集者から

本号は，年に一度の研究発表会の直前号となりました．第23回大会は，関西大学の諸先生のおかげで充実した大会となること間違いなしです．送られてきました渋い表紙のプログラムを拝見すると，幅広い分野から興味深い講演や研究発表が多く並んでいます．多くの方々のご参加を期待します．

次号会報は第23回大会の特集号で，12月1日発行予定です．記事の原稿締切は

10月31日

となります．会員の皆様の積極的なご投稿をお待ち申し上げております．下記までお送り下さい．e-mail でお送りいただけますと編集の手間がだいぶ省けます．宜しくお願いします．

原稿送付先

〒180　武蔵野市吉祥寺北町 3-3-1
成蹊大学工学部経営工学科
岩崎　学
TEL 0422-37-3764
FAX 0422-37-3871
e-mail iwasaki@is.seikei.ac.jp

（会報作成担当：岩崎　学・前田忠彦）